

職域接種の実施状況

全国最速となる6月21日から「ワクチンの職域接種」を開始。

本学では、厚生労働省、経済産業省からの要請を受けた文部科学省の案内に対応し、6月9日に「ワクチンの職域接種」の会場申請を行い、全国最速となる6月21日からワクチン接種を開始しました。

会場の設計について

接種予定数6,000名に対し、医師予診を4列、接種ブースを8列、接種後待機スペースは96名分とし、1時間当たりの接種対象者を120名とすることで安心・安全な体制で運営できると計算しました。随所にパーティションの設置や3密を避けるための適切な距離の確保等の感染予防対策を施し、体育館をU字に進む一方通行のレイアウトとしました。



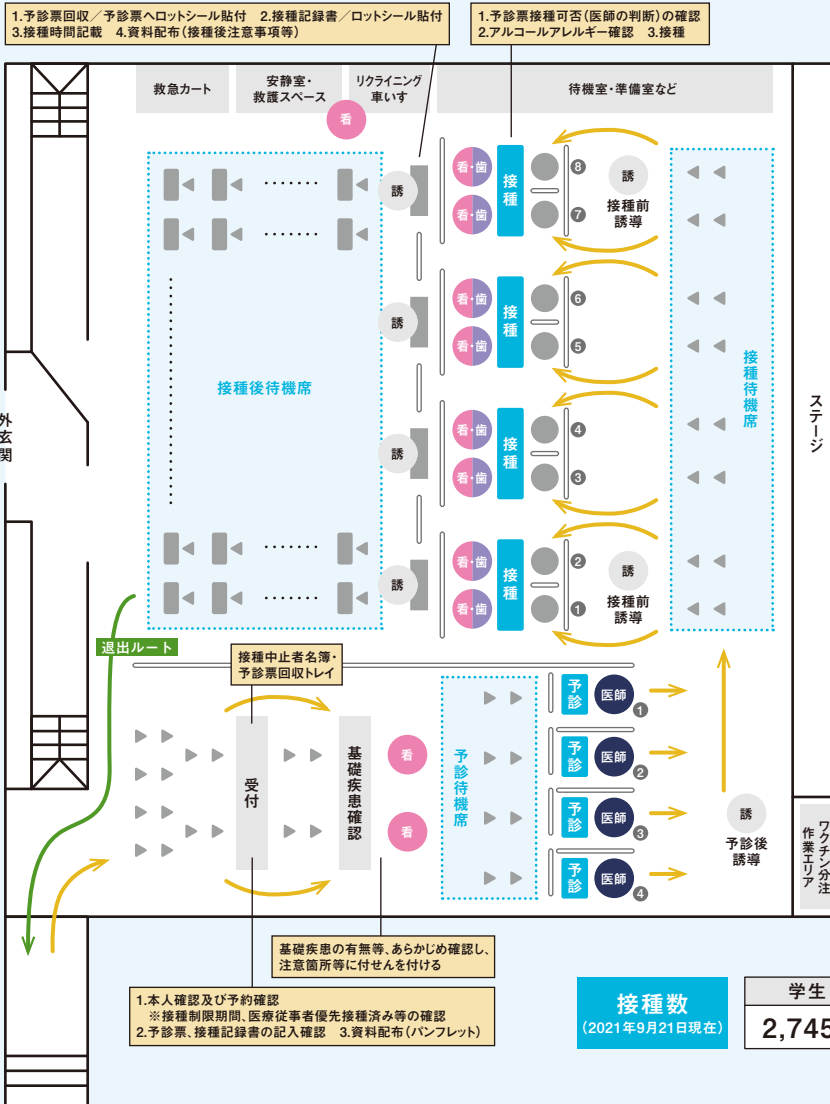
チーム医療体制について

大規模な職域接種の運営に際しては、人員の確保、会場設営、感染予防対策など検

討すべき課題は山積していますが、医療系総合大学である本学は、その特徴を生かし、オール北海道医療大学体制でこれらの課題を解決しました。医師予診担当は、学長を含む本学所属の医師が担当し、看護福祉

学部所属の看護師がワクチン接種、看護師予診、接種後健康観察を担当し、接種担当には看護福祉学部の教員により実技指導を受けた歯学部所属の歯科医師が加わりました。ワクチンの分注は薬学部所属の薬剤師が担い、体調不良者への救護所の運営には保健センター所属の医師・看護師が担当することとしました。また、会場設営、事務管理システムの構築、被接種者の受付・誘導等は事務系職員が担当することとしました。

職域接種 会場図



管理・運営体制について

全体総括責任者の下で管理運営組織を構築し、各部門に責任者を置くことで多職種連携が機能する体制としました。このような体制を敷いたことで、日々刻々と変化する状況についても各部門責任者を通じて周知することが可能となり、機能的な多職種連携体制が構築できました。

専門職が責任を持った業務の分担とそれらの連携が、安心・安全なワクチン接種会場運営の重要なポイントと捉えています。

学校法人東日本学園は、本学学生・教職員のみならず、地域の皆様が安心して毎日を過ごすことができるよう、全学を挙げて引き続き新型コロナウイルス感染症予防・感染拡大防止に取り組んで参ります。ワクチン接種が順調に進み、1日も早く日常を取り戻せることを祈念します。